



実地研修を始める前に（指導看護師用）



実地研修を正しく始めるために、以下の事項を必ず確認してください。

1 研修対象者等の確認

「実地研修対象一覧」と評価対象となる受講者、利用者及びその特定行為は合致していますか？

* 特定行為の追加や利用者等の追加はできません。

* 予定していた特定行為のうち、不要になった行為がある場合は、介護事業所に連絡してください。

2 研修する行為の確認

実地研修で行う特定行為は、研修テキストで学ぶ範囲内の行為ですか？

* テキストで学ぶ範囲外の行為は、原則として実地研修としては行えません。保険適用の関係もありますので、不明な点は必ず事前のご連絡ください。

【実地研修の評価としては行えない主な行為】

- ① ネブライザーの使用
- ② 永久気管孔のある方のたんの吸引
- ③ カニューレの奥（気管内部）の部分の吸引
- ④ 経管栄養による薬物の服用
- ⑤ 食道ろうによる経管栄養
- ⑥ 経鼻経管でのシリンジによる栄養剤の注入

※医療的ケア児等において医師の指示のもと実施する場合、別途追加資料【評価票】により実施することが可能（令和6年度より）

3 実地研修方法の確認

受講者が一人で特定行為の全手順（通常のケアと同様の手順）を実施した時のみを評価対象にしていますか？

* 以下の場合には実地研修として認められません。

例) 経管栄養剤を注入しない、吸引カテーテルを挿入しない等、模擬（シミュレーション）で研修を実施した場合

研修用に手順を省略した場合

4 評価票の確認

評価票は、東京都で定めた様式になっていますか？

* **令和6年度から評価票は変更となりました。**

◎達成度「エ. 1人での実施を任せれるレベルにはない。」の評価項目が増えました。

◎基本研修（現場演習）の実施状況を確認する欄を設けました。（詳細は、記入例をご確認ください。）

実地研修は、同送の評価票 もしくは、財団のホームページからダウンロードしたものを必ず ご使用ください。



評価票の記入ポイント



別紙「評価票記入例」も、必ずご確認ください

1 評価票の組み合わせは正しいですか？

* 評価票は9種類あります。利用者の状況に合わせてご使用ください。

- ・口腔内吸引(通常手順)① (人工呼吸器)②
- ・鼻腔内吸引(通常手順)③ (人工呼吸器)④
- ・気管カニューレ内吸引(通常手順)⑤ (人工呼吸器)⑥
- ・胃ろう又は腸ろう(滴下)⑦
- ・胃ろう(半固形)⑧
- ・経鼻胃管 ⑨

○よくある間違い例

【気管カニューレに人工呼吸器を装着している利用者に、口、鼻、気管カニューレのたん吸引を行う場合】

正しい組み合わせ (○)

- ①口腔 (通常手順)
- ③鼻腔 (通常手順)
- ⑥気管カニューレ (人工呼吸器)

誤っている組み合わせ (×)

- ②口腔 (人工呼吸器)
- ④鼻腔 (人工呼吸器)
- ⑥気管カニューレ (人工呼吸器)

2 評価票の手順を実施しない場合に、理由を記入していますか？

* 利用者の特性に合わせて、評価票の項目は変更、修正が認められています。

【手順を実施しない場合の評価票の記入方法】

①評価欄には必ず「／」を記入して下さい

②下欄の「留意点・特記事項」欄に、必ず実施しなかった理由を記述してください。

報告	27	ヒヤリ・ハット、アクシデントがあれば、あわせて報告する。	等を報告したか。	ア	ア	ア		
片付け	28	吸引びんの廃液量が70～80%になる前に廃液を捨てる。	・吸引びんの汚物は適宜捨てる。	/	/	/		
	29	保管容器や洗浄水等を適宜交換する。	・洗浄水や消毒液は継ぎ足さず、セットごと取り換えているか。	/	/	/		
記録	30	実施記録を書く。 ヒヤリ・ハットがあれば、業務の後に記録する。	—	ア	ア	ア		
アの個数				26個	28個	28個	個	個

※ 手引きの手順を抜かしたり、間違えた内容を具体的に記述してください。評価がイ、ウ、エの場合、その理由を具体的に記述してください。

留意点・特記事項

※ 特定の対象者における個別の留意点(良好な体位やOKサイン等)について、把握した上でケアを実施すること。

※ 実際に評価票を使用する際は、各対象者の個別性に適合させるよう、適宜変更・修正して使用すること。

変更点及び変更理由

3 行為の実施時刻までしっかり記入していますか？

* 実地研修を行った時刻はそれぞれの行為ごとに記入します。

たんの吸引を行う際、気管カニューレ → 口 → 鼻 のように、一連の流れで研修を行った場合でも、それぞれの特定行為ごとに異なった開始時刻を記入してください。

評価票の記入例

実地研修用評価票（R6より改定）

受講者氏名（ 福祉 一郎 ）（受講番号： Z〇〇〇〇 ） 利用者氏名（ 青ヶ島 三郎 ）

口腔内吸引
（通常手順）

<評価票 1. 口腔内吸引（通常手順）>

達成度	ア. 1人で実施できる。評価項目について手順通りに実施できている。 イ. 1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。実施後に指導した。 ウ. 1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。 その場では見過ごせないレベルであり、その場で指導した。 エ. 1人で実施を任せられるレベルにはない。
-----	---

全項目について
記入してください

実施手続	評価項目	回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
		日 時	9/21	9/22			
		開始時間	13:00	13:00	17:00		
実施準備	1 水と石けんで手洗いをする。	・外から	ア	ア	ア		
	2 医師の指示書を確認する。	・ここま	ア	ア	ア		
	3 対象者本人・家族もしくは記録にて、体調を確認する。		ア	ア	ア		
実施	4 吸引の必要性を説明し、対象者の同意を得る。	・「痰がコロコロしているため吸気しても大丈夫でしょうか。」などと説明し、同意を得たか。	ア	ア	ア		
	5 吸引の環境、対象者の姿勢を整える。	・環境の調整及び効果的に喀痰を吸引できる体位か。	ア	ア	ア		
	6 口の周囲、口腔内を観察する。	・喀痰の貯留、出血、腫れ、乾燥などのチェックをしたか。	ア	ア	ア		
	7 流水と石けんで手洗い、あるいは速乾性擦式手指消毒剤で手洗いを	・吸	ア	ア	ア		
	8 使い捨て手袋をする。場合によってはセツンを持つ。		ア	ア	ア		
	9 吸引カテーテルを不潔にならないように取り出し、吸引器に連結した接続管に接続する。	・衛 ・吸	ア	ア	ア		
	10 吸引器のスイッチを入れる。		ア	ア	ア		
	11 決められた吸引圧になっていることを確認する。	・吸引圧は20キロボスカ以下に設定されているか。	ア	ア	ア		
	17 吸引カテーテルの外側をアルコール綿で拭き取った後、吸引カテーテルと接続管の内腔を、洗浄水等で洗い流す。	・吸引カテーテルの外側をアルコール綿で拭き取った後、吸引カテーテルと接続管の内腔を、洗浄水等で洗い流す。 ・接続管に喀痰が残っていないか。 ・吸引カテーテル内に喀痰が残っていないか。	ア	ア	ア		
	18 非利き手で、吸引器のスイッチを切る。	・吸引器の機械音は、吸引が終わったらできるだけ早く消す。	ア	ア	ア		
	19 【単回使用の場合】吸引カテーテルを接続管からはずし、破棄する。	・衛生的に操作できているか。	ア	ア	ア		
	20 手袋をはずす。セツンを使用した場合は元に戻す。	・衛生的に操作できているか。	ア	ア	ア		
	21 対象者に吸引が終わったことを告げ、喀痰がとり切れたかを確認する。	・吸引終了を告げ、喀痰がとり切れたかどうかを確認しているか。	ア	ア	ア		
	22 体位や環境を整える。	・安楽な姿勢に整え、環境の調整を行ったか。	ア	ア	ア		
	23 対象者の顔色、呼吸状態、吸引物の量や性状等を観察する。（経鼻経管栄養を行っている場合、吸引後の口腔内に栄養チューブが出ていないか確認する。）	・苦痛を最小限に、吸引できたか。 ・対象者の状態観察を行っているか。	イ	ア	ア		
	24 流水と石けんで、手洗いをする。	・ケア後の手洗いを行ったか。	ウ	ア	ア		
報告	25 指導看護師に対し、吸引物、吸引前後の対象者の状態等を報告する。 ヒヤリ・ハット、アクシデントがあれば、あわせて報告する。	・吸引の開始時間、吸引物の性状・量、吸引前後の対象者の状態等を報告したか。 ・ヒヤリ・ハット、アクシデントがあれば、報告したか。	ア	ア	ア		
片付け	26 吸引びんの廃液量が70～80%になる前に廃液を捨てる。	・吸引びんの汚物は適宜捨てる。					
	27 保管容器や洗浄水等を適宜交換する。	・洗浄水や消毒液は継ぎ足さず、セットごと取り換えているか。					
記録	28 実施記録を書く。 ヒヤリ・ハットがあれば、業務の後に記録する。		ア	ア	ア		
アの個数			24個	26個	26個		

それぞれの特定行為（行為別）ごとに研修を始めた日時を必ず記入してください。

※同じ受講者・利用者、その特定行為において、同一日時がある場合は問い合わせさせていただきます。

連続2回、全項目が、「ア」と評価するまで、行ってください。（必ず1個ずつ記載。↓で省略しないこと。）

※ 手引きの手順を抜かし、間違えた内容を具体的に記述してください。評価がイ、ウ、エの場合、その理由を具体的に記述してください。

記入例）③吸引物の観察を怠っていた。④を抜かした。

留意点・特記事項

※ 特定の対象者における個別の留意点（良好な体位やOKサイン等）について、把握した上でケアを実施すること。

変更点及び変更理由

記入例）②⑥は家族が行うことになっているため、評価なし。

◎基本研修（現場演習）の実施状況を確認する欄を設けました。

必ず指導看護師派遣事業所名を記載するとともに、指導した看護師の署名（自署）を行ってください。

※記載もれの場合は、再提出依頼の対象となります。

【基本研修（現場演習）の実施状況について】

実地研修を行う前に、利用者が使用している器具・機材等を用いて実施手順に従って繰り返し演習を行い、一連の手法が「手順どおりに実施できていた。」

指導看護師派遣事業所名

記入例）中央訪問看護ステーション

指導看護師（署名）

記入例）中央 あき子

記載不備の例

気管カニューレに人工呼吸器を装着している利用者に対する 口腔のたん吸引の評価票の場合
(○ 口腔内吸引:通常手順 ×:人工呼吸器)

■ 様式の違い

実地研修用

実地研修用評価票 (R6より改定)

受講者氏名 【 】 受講番号 【 】 利用者氏名 【 】

様式間違い!
人工呼吸器: ×
通常手順: ○

口腔内吸引 (人工呼吸器)

<評価票2: 口腔内吸引(2. 口腔内吸引(口鼻マスクによる非侵襲的人工呼吸療法者用手順)について記入してください)>

達成度	ア. 1人で実施できる。評価項目について手順通りに実施できている。	回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
	イ. 1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。実施後に指導した。		月 日【必須】	/	/	/	/
	ウ. 1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。						
	エ. 1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。						
	その場では見過ごせないレベルであり、その場で指導した。						
	エ. 1人での実施を任せられるレベルにはない。						
実施手順	評価項目	※各行為ごとの開始時間を記入して下さい	時間【必須】				
		評価の視点	評価				

■ 利用者・実施日時・特定行為の組み合わせ間違い

【気管カニューレ内吸引(人工呼吸器)の評価票】

【口腔内吸引(通常手順)の評価票】

多用評価票 (R6より改定)

番号: A0000) 利用者氏名 (青ヶ島 三郎)

装着者: 侵襲的人工呼吸療法) >

9/20の12:30に

青ヶ島三郎さんに対して

口腔内と気管カニューレ内の吸引を同時に実施??

評価票 (R6より改定)

A0000) 利用者氏名 (青ヶ島 三郎)

回数 1回目 2回目 3回目 4回目 5回目

月 日【必須】 9/20 9/21 9/22 / / /

※各行為ごとの開始時間を記入して下さい 時間【必須】 12:30 15:00 17:00

回数 1回目 2回目 3回目 4回目 5回目

月 日【必須】 9/20 9/21 9/22 / / /

※各行為ごとの開始時間を記入して下さい 時間【必須】 12:30 15:00 17:00

■ 手順どおりに実施しなかった場合の記載もれ

報告	27	指導看護士に対し、吸引物、吸引前後の対象者の状態等を報告する。	・吸引の開始時間、吸引物の性状・量、吸引前後の対象者の状態等を報告したか。	ア	ア	ア
付	28	ヒヤリ・ハット、アクシデントがあれば、あわせて報告する。	・ヒヤリ・ハット、アクシデントがあれば、あわせて報告したか。	ア	ア	ア
記録	29	吸引びんの廃液量が70～80%になる前に廃液を捨てる。	・吸引びんの廃液量が70～80%になる前に廃液を捨てたか。	ア	ア	ア
	30	保管容器や洗浄水等を適宜交換する。	・洗浄水や消毒液の交換状況を把握しているか。	ア	ア	ア
		実施記録を書く。				
		ヒヤリ・ハットがあれば、業務の後に記録する。				
		アの個数		26個	28個	28個
		手引きの手順を抜かしたり、間違えた内容を具体的に記述してください。評価がイ、ウ、エの場合、その理由を具体的に記述してください。				

記入もれ!

留意点・特記事項

※ 特定の対象者における個別の留意点(良好な体位やOKサイン等)について、把握した上でケアを実施すること。

※ 実際に評価票を使用する際は、各対象者の個別性に適合させるよう、適宜変更・修正して使用すること。

変更点及び変更理由